

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100545		
法人名	社会福祉法人 ひかりの里		
事業所名	グループホーム めだかの学校 高畑		
所在地	山梨県甲府市高畑2丁目16-11		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	令和2年3月5日(木曜日)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設が開所して3年目ですが、初年度職員全員で決めた理念「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする。」という理念に基づいて、利用者様が安心して生活していただけるよう、また、第2の家(ホーム)になれるよう日々努力しています。昨年同様に、外に出る機会を出来るだけ設け、桜花見、紅葉狩り、法人運動会や法人夏祭り等、グループごとに分かれての外出等、利用者様に季節を感じていただけるように外出も規制行っています。利用者様ご家族との交流も考え、敬老会、クリスマス会等を設け多くのご家族にもご参加いただいています。季節ごとの野菜も育て収穫し、ご家族ともども家庭的な雰囲気づくりを大切にしたいと思ひ努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府の南西に位置し、近くに飲食店が点在している住宅に囲まれた比較的静かな環境にある。開設3年目の木造2階建ての2ユニットである。開設時に職員全員で決めた「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」と言う理念に基づき、「第2の家」を目指し、一人ひとりの意思を尊重した生活が実現するように定期的な外出や日常的に戸外への散歩などの支援を常に行うように努めている。また、家族には様々な行事に参加してもらい利用者との交流の場を多く持てるように努め、職員は家庭的な雰囲気でも明るく挨拶、常に笑顔を忘れないを心掛け、利用者の笑顔であふれる事業所を目指し、職員全員で日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>1.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所3年目なので、初年度と同様に、「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあたっている。	開所3年目なので、初年度と同様に、「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあたっている。	開所当初、職員全員で決めた独自の理念を、利用者が毛筆で書いたものを各フロアに提示してあり、利用者・職員と共に共有している。明るく笑顔で挨拶、常に笑顔をお忘れなく意識し、職員会議で振り返り、話し合うことで、日々の生活の中に理念が活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加し、自治会の花見、運動会等のイベントにも参加、地域の防災訓練にも参加している。	地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加し、自治会の花見、運動会等のイベントにも参加、地域の防災訓練にも参加している。	自治会に加入。回覧が回ってくる。広報や民生委員より地域の行事予定の情報を受けて、職員が河川清掃に参加したり、自治会の花見や運動会の見学、防災訓練等に利用者が参加し地域との交流に繋がっている。また、日中は延命地蔵さんに散歩に行き近隣の方と挨拶を交わすなどの機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知って頂き、認知症等の病気のご理解を頂けるよう話をしている。	地域の行事に積極的に参加し、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知って頂き、認知症等の病気のご理解を頂けるよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるように努力している。	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるように努力している。	運営推進会議は奇数月に開催。事業所の日頃の様子の報告や災害時・感染症マニュアルなどを説明し、意見を聞いている。また、ボランティアや自治会活動の情報をもらい日ごろの活動に活かす努力をしている。議事録は申し送りノートに会議録と一緒に職員に提出している。外部評価のアンケートを紹介しサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話、相談を聞いてくれる。	問題点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話、相談を聞いてくれる。	担当者に直接、運営推進会議議事録や介護認定の更新の折、事業所・利用者の様子を報告している。近くを流れる川に重機を入れて整備の検討。仕事以外の要望について運営推進会議で相談、入居時に説明し、書面に残したらどうかとのアドバイスを受けている。市から介護相談員が派遣され利用者と交流をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修にて、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置し職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	法人全体の研修にて、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置し職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	法人全体の研修が年間5回あり、うち1回が身体拘束の研修である。新人職員・経験の浅い職員には、管理者が毎月1回研修を行なっている。スピーチロックについては職員同志気がした時には都度お互いに注意し合える関係ができています。身体拘束委員会でも周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人一人の尊厳を大切に、声掛け一つでも虐待につながることを意識し、職員同士でも適切な介護がなかったかを指摘し合い、丁寧な言葉使いをできるように心がけている。	利用者一人一人の尊厳を大切に、声掛け一つでも虐待につながることを意識し、職員同士でも適切な介護がなかったかを指摘し合い、丁寧な言葉使いをできるように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度について、新規の職員もおり、全職員が周知しているとはいえないので、法人をどうしての研修や当施設でも学ぶ場を設けてゆく。ご家族等の関係者が来所の際に要望がある場合は、相談等に応じてゆく。	成年後見人制度について、新規の職員もおり、全職員が周知しているとはいえないので、法人をどうしての研修や当施設でも学ぶ場を設けてゆく。ご家族等の関係者が来所の際に要望がある場合は、相談等に応じてゆく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を回っている	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応している。	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応している。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 ( 1階 )	ユニット名 ( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。施設の行事の際には、ご家族も出席いただき日頃の様子を見てもらう機会にしている。	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。	利用者・家族の要望からフロアでの席替えを行ったり、過ごし方の工夫の意見を貰い、人員を増やすなどして外出の機会をできるだけ多く持てるように計画を立てている。また、習字や歌などを行ない余暇を過ごしている。家族の面会など多くあり、意見や相談などしやすい環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。	個人面談は、管理者が休憩時間を利用し行っている。日頃から一人ひとりに意見や要望を聞く等発言しやすい環境となっている。シフトなどの処遇改善は書面にして統括責任者に報告し検討中。他に、2階の階段が、車いす利用者に危険なため、簡単な開き戸を付けて欲しいとの意見があり、検討中である。物品管理方法の見直しを行なった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が認められる、職場の環境作りを意識している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。	職員の努力が認められる、職場の環境作りを意識している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高畑勉強会として職員会議の後で、職員が交代でテーマを変え調べてきた事を発表する場を設けている。年5回の法人の研修や月に1回の職員研修にできるだけ参加し、知識や技術の向上に努めている。	高畑勉強会として職員会議の後で、職員が交代でテーマを変え調べてきた事を発表する場を設けている。年5回の法人の研修や月に1回の職員研修にできるだけ参加し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を実施し、ご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。	入居前に面談を実施し、ご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活をし、家事活動を共に行うことで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築くように努力をしている。	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活をし、家事活動を共に行うことで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築くように努力をしている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状態等を連絡したり、毎月高畑の施設新聞をお送りして利用者様の様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点がありご家族と話したい希望があれば、ご本人様に電話をかけてもらうなどの対応をしている。	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状態等を連絡したり、毎月高畑の施設新聞をお送りして利用者様の様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点がありご家族と話したい希望があれば、ご本人様に電話をかけてもらうなどの対応をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族対応にて、同窓会や無人の方との食事会などに参加をしていたり、お墓詣り、法事などに出かけられたりしている。また、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場所などを、個別外出などにより、訪れている。また、教え子の面会もあり、利用者との関係を大切にしている。	ご家族対応にて、同窓会や無人の方との食事会などに参加をしていたり、お墓詣り、法事などに出かけられたりしている。また、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場所などを、個別外出などにより、訪れている。また、教え子の面会もあり、利用者との関係を大切にしている。	利用者や家族から情報を得、同窓会への参加・墓参り、自宅を見に行く等、家族が対応している。知人・親戚・教え子の面会なども家族の許可を得ている。利用者が家族に電話をしたり知人に手紙を書くなどの支援も行っている。個別外出が4～5人のグループで食事・買い物など本人の行きたい所を聞き、馴染みの関係の継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中で、利用者様同士で助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、リクエストのあったおやつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、いい関係を築くようにしている。	家庭的な雰囲気の中で、利用者様同士で助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、リクエストのあったおやつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、いい関係を築くようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時よりグループホームにいられない状況になった場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後も、相談事や不安点をお聞きしている。	契約時よりグループホームにいられない状況になった場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後も、相談事や不安点をお聞きしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いをくみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合には、ご家族にも協力して頂いている。利用者の得意なことを見つけ家事活動等に活かしている。	毎月のケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いをくみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合には、ご家族にも協力して頂いている。利用者の得意なことを見つけ家事活動等に活かしている。	職員は、日常の行動・会話の中から思いをくみ取り、ケアプランと共にケース記録から把握し共有している。料理好きな方には食事作りを手伝ってもらう、掃除を手伝ってもらう等の利用者一人ひとりの楽しみごと・得意なこと等を活かした個別ケアを重視し支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に書いて頂いている。また、ご本人の若い頃の様子をご家族にも密にお話をお伺いしている。	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に書いて頂いている。また、ご本人の若い頃の様子をご家族にも密にお話をお伺いしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供している。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維持するように努めている。また、その他にも色々な事をやって頂くように心掛けている。	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供している。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維持するように努めている。また、その他にも色々な事をやって頂くように心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出された意見はケアに取り入れている。職員会議以外にも日頃より、より良いケアを目指し、職員同士、ご家族とも話し合いを行っている。	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出された意見はケアに取り入れている。職員会議以外にも日頃より、より良いケアを目指し、職員同士、ご家族とも話し合いを行っている。	利用者・家族から希望を聞き暫定プランを作成。日々のケアの中の記録や職員・本人・家族・医師の意見を組み込んだ本プランを作成している。毎月1回全職員で一人ひとりの利用者の情報交換を行い、ケアプランに活かしている。3か月で見直しを行い、変化があった場合は随時見直しを行ない、より良いケアに繋がる現状に則した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録に、実践、結果、気づきを書きつつ、職員どうして小さな事から話をして、問題点を導きだし、見直しに努めている。	日々個人記録に、実践、結果、気づきを書きつつ、職員どうして小さな事から話をして、問題点を導きだし、見直しに努めている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれたニーズには、臨機応変に対応できるように努力しているが、難しい部分もあるため柔軟な対応ができるように取り組んでいきたい。	その都度生まれたニーズには、臨機応変に対応できるように努力しているが、難しい部分もあるため柔軟な対応ができるように取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、地域の方より作品作りや慰問等の話をして頂いている。婦人部の慰問が1度あったが、これからもお願いして実現できるように取り組んでいきたい。	運営推進会議にて、地域の方より作品作りや慰問等の話をして頂いている。婦人部の慰問が1度あったが、これからもお願いして実現できるように取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があれば、すぐに医師に連絡するようにしている。	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があれば、すぐに医師に連絡するようにしている。	かかりつけ医の定期受診は原則家族対応となっていて、状況は口頭で家族に伝える。法人の協力医の受診は職員が対応し、面会時や電話で結果の報告を行ない共有している。専門医の受診も家族に同意を得て職員が対応。訪問歯科医が月2回訪問し4~5名対応している。ここで看取りを希望されている方に往診医が月1回対応している。状況の変化時、医師とは、直ぐに連絡が取れる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の気になる点はずぐに、管理者、ケアマネに報告、相談し、何かあれば直ぐに医師に相談し対応している。	介護職員は、日常の気になる点はずぐに、管理者、ケアマネに報告、相談し、何かあれば直ぐに医師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設でできる事と限界を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設でできる事と限界を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	入居時に本人・家族には、重度化・終末期のついて説明を行なっている。看取りの希望者には、初期の段階から医師・職員と話し合っている。食事が摂取できなくなり、医療行為が必要となった場合は医師・家族・管理者で話し合い、最終的には家族が決める。職員の看取り研修は、往診医に依頼中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	事業所独自で夜間を想定した地震・火災訓練(通報・初期消火等)をマニュアルに沿って年3回実施。地域の消防団とも協力体制にある。夜勤専門の職員には、夜間の訓練を検討中である。外出の際に利用者が車に乗らむまでの訓練を行ない、職員間で話し合い、次に繋げている。日頃から利用者には大きな声を出す訓練も行っている。近隣住民との協力体制も検討中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉でもプライバシー、尊厳を傷付ける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉でもプライバシー、尊厳を傷付ける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	個人を尊重する上でトイレ誘導・入浴時の声掛け・入室時ノックをする再等、言葉の使い分けや代替え声掛けを丁寧に行っている。言っていないこと・悪いことを職員は理解している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。何事も自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。何事も自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。	その日によって利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行い、自身で洋服を選んで買って頂いている。	行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行い、自身で洋服を選んで買って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しみを共有している。	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しみを共有している。	毎週、利用者の苦手な物を考慮した献立を職員が交代で立て、火曜日と金曜日に利用者と一緒に買い物に行く。調理は主に職員が行うが、利用者は下ごしらえ・盛り付け・配膳・下膳等と一緒に楽しそうに行っている。お花見等のイベント時は手づくり弁当を持参し、個別外出時は外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせた口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。	毎食後個人に合わせた口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせ、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、パットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	個人の排泄パターンに合わせ、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、パットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	個人の排泄チェック表を記入、職員が把握したトイレ誘導を行なっている。オムツ・ポータブルトイレの利用者はいない。大判パットから小さいパットに変わった利用者がいる。また、同一グループ合同で、トイレ誘導時のさりげない介護(羞恥心・不安の体験)利用者の立場になった体験研修を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらうよう、声掛けを行っている。	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カんでもらうよう、声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	本人の希望に添った入浴支援を行っている。午前・午後いつでも入浴でき、日頃の入浴状況を家族に聞き必要な介助を行なっている。入浴を拒む利用者は時間を変えたり職員を変えて声掛けする・翌日に変更するなどの対応を行う等無理強いはいしない。入浴剤・柚子湯・柿の葉浴を楽しんでいる。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 ( 1階 )	ユニット名 ( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いている。	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にいる、自分の役割と思って頂けるように努力している。	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にいる、自分の役割と思って頂けるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話でラーメンが食べたいと要望があったさいには、目の前にあるラーメン屋さんで数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、ご家族と相談を行い、外出ができるように、支援を行っている。	日頃の会話でラーメンが食べたいと要望があったさいには、目の前にあるラーメン屋さんで数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、ご家族と相談を行い、外出ができるように、支援を行っている。	月1回、商業施設に「みんなで買い物ツアー」に行き、買い物支払いも自分で行っている。季節の花見も年数回あり、同法人の車を借り出掛け、家族の協力も得て楽しんでいる。日常的に延命地蔵に出掛け地域の方と挨拶を交わしている。敷地内のあずまやでは、外気浴やお茶を楽しむ利用者もいる。箱庭があり、野菜などを植えることを利用者は楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	1階・2階とも、フローアを囲むように居室があり、大きなテーブルを囲んで思い思いに過ごされている。各フロアにソファが置いてあり、家族の面会時や利用者の談話の場ともなっている。廊下やフロアには利用者の創作品が貼られ目を引く。トイレや浴室も広く、ゆったりとしていて、整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思で一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思で一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	居室は全室フローリングとなっている。ベッド・カーテン・吊戸棚・整理ダンス・エアコンは備え付け、好みの寝具を持ち込んでいる。整理ダンスはゴロ付きで自由に移動でき、利用者や家族は持ち込んだテレビや家族写真等を一緒に配置し、居心地の良い居室となっている。日当たりも良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができた、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができた、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。		